

# 都政レポート

子育て支援特集号

ホームページでも情報発信中! <http://otokitashun.com>

音喜多駿(おときたしゅん) / 1983年9月21日北区王子本町生まれ。  
いなり幼稚園、北区立王子第二小学校卒の生粋の北区民。海城中学・高校、  
早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業後、外資系企業で7年間のビジネス経験を経て、  
現在東京都議会議員一期目。ネットを中心に積極的な情報発信を行い、地方議員トップブロガーとして活動中。  
都議会会派「みんなの党 Tokyo」では政調会長を務める。

## 子育て支援特集号 目次

1. 悪いのは母親?ベビーシッター制度?

2. 絶対的に足りない子育て支援と、政策の大いなるズレ

3. とことん不平等、それを「我慢させる」日本の保育政策

4. 必要なのは多様な保育支援、そしてそのための資源の確保

5. 未来の子供たちに投資を!わたしたちにできること

おときた駿からのお知らせ

## 悪いのは母親?ベビーシッター制度?

2014年3月、インターネットサイトで依頼したベビーシッターに預けた2歳の子供が亡くなるという、痛ましい事件が発生しました。これは各種メディアで大きな話題になり、「見も知らぬ人間をネットで見つけて、預ける母親が無責任だ」「無認可のベビーシッター制度が問題、取り締まるべき」などの議論が巻き起こりました。しかしながら、**責任を母親に求めたり、ベビーシッター制度を規制したところで、本質的な問題は解決しません。**それどころか、母親たちはますます世間の「規範」に縛られることになり、規制されたベビーシッター制度はますます使いづらいものになって、働く女性たちの機会を奪っていくことになるでしょう。

## 絶対的に足りない子育て支援と、政策の大いなるズレ

そもそも、どうしてこのようなことが起こってしまうのでしょうか?日本の保育政策はもっぱら、認可保育所をつくることに集中してきました。十分な保育士と広い園庭を兼ね備えた認可保育所は、環境としては良いかもしれませんが、その厳しい条件ゆえに量的な拡大が困難です。また、土日祝日は基本的にお休みで、延長保育などへの柔軟な対応が難しいなど、現代の働く女性の様々なライフスタイルとは大きく乖離し、利用しづらいものになっています。

この背景には、我が国においては**保育政策の受益者(対象者)は「児童」であると考えられてきたことがあります。決して「働く女性(保護者)」ではないのです。**児童に最適な保育環境を提供することに心を砕いても、働く女性の様々なニーズに応えることは二の次にされてきました。その結果、小規模保育やベビーシッターなど、機動的で小回りは効くものの、児童に対する保育の質においては劣る(と思われる)保育形態に関しては、ほとんど政策的な支援、つまり税金の投入が行われてこなかったのです。

## とことん不平等、それを「我慢させる」日本の保育政策

保育政策が認可保育所に偏ることの、何が問題なのでしょう?もちろんその第一は、待機児童の問題です。時代のニーズにその絶対的な数が足りておらず、東京都でも常に数千人の待機児童が発生しています。厳しい設置条件が緩和されない限り、認可保育所の量的な拡大は望めません。

加えて根本的な問題は、**認可保育所を利用できる保護者とできない保護者で、著しい不平等が発生することです。**行政が行う政策は、限りなく受益が公平でなければいけないはずですが、Aさんが救急車を呼べばくるのに、Bさんが呼んだらこない。Aさんの家では水道をひねると水が出るのに、Bさんの家では水が出ない。こんなことは許されないのは当然ですが、**こと保育所に関しては「入れなかったけど、我慢してね」で済まされているのが現状なのです。**同じ街に住んで、同じ税金を払っているのに、運よく認可保育所を利用できた保護者は安い料金で良い設備の保育支援が受けられる。一方、抽選に外れたり、ライフスタイルの問題で認可保育所を利用できない保護者は、高額でリスクも高い他の保育施設を自分の力で見つけなければならないのです。さらに今回のような事件が起これば、責任まで追及されます。

端的に言えば、認可保育所という恩恵に預かれていない母親(保護者)たちは、**コストとリスクを背負わされ、今回のベビーシッター事件のようなことが起これば、責任まで追及されるのです。**こんな社会で一体、誰が子ども産みたい、育てたいと思うのでしょうか?



# 必要なのは多様な**保育支援**、そしてそのための**資源(税金)**の確保

これからは画一的な認可保育所だけではなく、**小規模保育やベビーシッターなどにも一定の税金を投下して、さまざまな保育形態を育成していくべきです**。事件を受けて「ベビーシッターに規制を!」という声もありますが、単に規制をかけるだけでは数が減り、ただでさえ高額なシッター料金がさらに高騰することになります。保育所やシッターなどの**特定の保育機関にのみ使えるバウチャー(クーポン)を子育て世代に配布して、利用者助成を行うなどの政策が有効です**。こうした政策は「保育バウチャー」と呼ばれ、いくつかの先進国で実績があります。保育所などの施設に運営費を補助するのではなく、利用者側を助成することで「選ぶ権利」「選択肢」を拡充し、これにより保育施設側にも様々な競争が起こり、価格競争やサービスレベルの向上が見込まれます。また、クーポンを使える保育機関を認定するのは行政の役割になりますから、その時点で不適切な事業者は取り除くことができ、安全面の担保もしっかりと行うことが可能です。**これは政策の受益者(対象者)を児童から、子育てを実際に行う保護者に転換していくことでもあります**。

図1 各国の家族関係社会支出の対 GDP 比の比較 (2005 年)

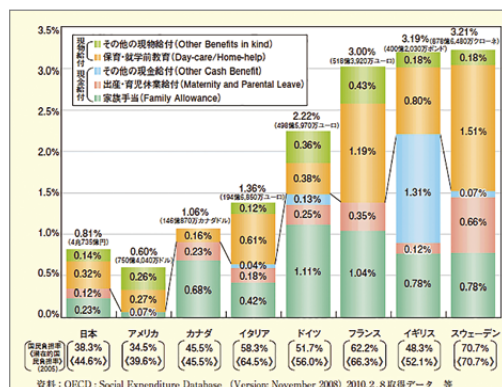
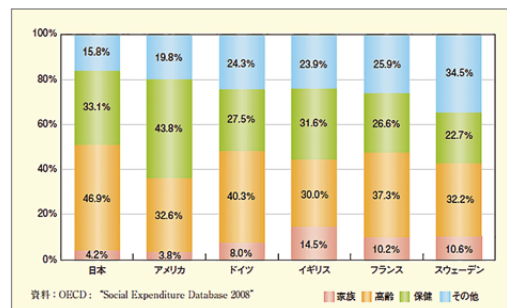


図2 各国の社会保障給付費の構成比 (2005 年)



またそもそも、子育て支援・保育政策に使う税金の量を増やしていかなければいけません。**日本は保育や教育などに将来世代のために支出する税金が、本当に本当に、極端に少ない国なのです**。これらを「家族関係社会支出」と言いますが、対 GDP 費でわずか 0.81% の予算しか使われておらず、諸外国と比較しても最低レベルです(図 1)。

その大きな要因は、**社会保障費の支出が極端に高齢者向けへと偏っていることにあります(図 2)**。我が国の政治家たちは、票をくれる大人や高齢者たちにおもねり、声なき子供たちを無視しつつしてきました。高度経済成長期やバブル時代の常識にとらわれて、子育て世代への投資を怠った結果、日本は未曾有の少子化社会を迎えていると言っても過言ではありません。

## 未来の子供たちに投資を! わたしたちにできること

どうすれば保育政策を転換し、また多くの税金を子育て支援に投資することができるようになるのでしょうか。

**それは一人ひとりが声をあげて、政治に意見を届けるしかありません**。「待機児童は重大な問題だ」と多くの人が言いますが、本心でそう思っている人はそう多くありません。保守的な人々はいまだに「子どもは家庭で育てるもの」「保育所を使いたくないなんて、甘えている。自分たちの若い頃は…」と本気で思っています。**子どもに投資しない国に対して本気で危機感を覚えて、意見を発信する人がもっともっと増えなければ、この国の政策は変わりません**。

一例ですが、東京都ではシルバーパスに年間 160 億円もの予算が使われているのに、待機児童対策の認証保育所(市部のみ)には 32 億円、少子化対策の不妊治療助成には 25 億円しか投資されていません。こうした政策方針の転換を、どこかで決断しなければならないのです。高齢化に伴い、シルバーパスの予算は毎年 3 億~5 億円ずつ確実に増えています。これだけの財源があれば、いま課題になっている「保育士の待遇改善」などはかなり解決できるはずですが、もちろん、シルバーパスのすべてが悪いわけではありませんが、一定の利用料を取るなどして、その財源を将来世代に回していくべきでしょう。政治家がすべての人にいい顔をできる幸せな時代は、もはや終わったのです。

私はこうした「保育政策の転換(バウチャー制度の導入など)」「子育て支援への一層の投資」を、政治の世界の最前線で訴え続けて参ります。皆さまもぜひ、将来世代への投資、子育て支援の問題について、関心を高く持ち続けていただければ幸いです。

## 「出張都政報告」にうかがいます!

「町内会で都政の報告をして欲しい」「自分たちの会合で東京都の話が聞きたい」「行政について話を聞きたい」等、皆さまのお集まりに呼んでいただければ、都議会議員おときた駿が**北区内どこへでも出張いたします!**(日時は要相談となります)

少人数でも、まずはお気軽に電話・ファックス・メールにておときた駿事務所までご連絡下さい。



## ブログ、ツイッターで毎日情報発信中!

▶ **Twitter** <http://twitter.com/otokita/>

▶ **ブログ** <http://otokitashun.com/blog/>

おときた駿は、ブログや SNS をかかさず「毎日」更新し、政治や都政の現状をお伝えしております。そのブログ記事は、**BLOGOS**や**ハフィントンポスト**といった有名ニュースサイトでも頻繁に配信されています。ネットを活用される方は、ぜひ「**おときた駿**」で検索してみてください!

都政のこと、北区のこと… どんな小さなことでもかまいません。皆さまの声をお寄せください!

お問い合わせは… [mail@otokitashun.com](mailto:mail@otokitashun.com)

各種ご連絡先 **おときた駿事務所**

〒114-0034 東京都北区上十条 2-25-14

Tel/Fax 03-3908-3121

公式  
サイト  
へ  
て

